

6年産麦の安定生産に向けて、 排水対策の徹底と、 適期は種の実施を！

長岡地域振興局農林振興部

麦作情報 No.1

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

大麦の収量及び品質向上のための技術対策としては、「排水対策の徹底」、「適期管理（特に、は種時期）」が重要です。

さらに安定した収量を確保するためには、「越冬前の生育量確保」と「越冬後の適切な追肥」の実施が安定生産を左右します。

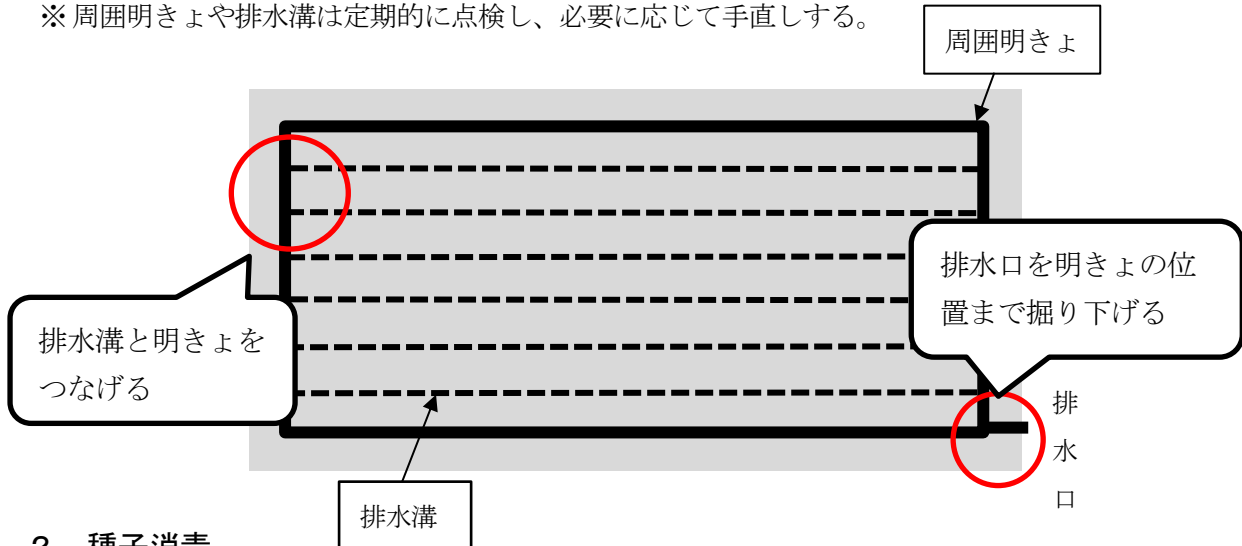
1 排水対策

排水対策は、円滑なは種作業の実施と湿害を回避するために重要な作業です。水稻収穫後、速やかに施工しましょう。

表1 主な排水対策

	作業のポイント
周囲明きよ※ (地表排水)	ほ場の周囲に幅30cm、深さ25~30cmの溝を掘る。排水口を周囲明きよの位置まで掘り下げる。
排水溝※ (地表排水)	ほ場内に3~5m間隔で深さ20cm程度、幅20~30cmの溝を切り、必ず周囲明きよに接続する。
弾丸暗きよ (地下排水)	本暗きよと直交するように深さ35~45cmに施工する。施工間隔は、透水性の悪い土壌では2~3mとし、透水性の良い土壌では間隔を広げる。

※周囲明きよや排水溝は定期的に点検し、必要に応じて手直しする。



2 種子消毒

薬剤消毒法又は温湯浸漬法のいずれかを実施します。黒穂病類・斑葉病は生育中の防除法がないことから、必ず種子消毒を実施しましょう。

表2 種子消毒の留意点

	方法と留意点
薬剤消毒法	湿粉衣する。処理後は必ず風乾する。
温湯浸漬法	大麦の場合、初期の湯温を42℃とし、加温せずに自然に温度が下がるまま、10時間浸漬する(終了時約30℃)。

3 基肥等の施用

- (1) 基肥は、越冬前の生育量を確保するために、必ず施用しましょう(表3)。
 (2) 大麦は酸性に弱く、酸性土壌では生育不良となるため、**pH6.0~6.5** を目標に、
 土壌診断に基づき石灰質資材を施用しましょう(管内の多くは、酸度矯正が必要)。

表3 基肥等の施用量のめやす

	施肥量のめやす
石灰	消石灰の散布量のめやす：100~150 kg/10a
基肥	10a 当たり施用量(成分)のめやす：窒素5~6 kg, リン酸8~10 kg, カリ3~4 kg

4 は種様式・時期

は種時期は秋雨の時期に当たるため、は種準備は早めに行いましょう。

は種様式は、出芽・苗立ちや生育・収量の安定する**畝立てドリルまき**が望ましいです。は種様式に合ったほ場条件を確保し、適切なは種量に設定しましょう。(表4)。

また、**越冬前の生育量を確保するためには、適期は種が重要**です。地帯別に応じた適期は種に努め、は種前には種機の調整を行いましょう(表5)。

表4 主なは種様式のは場条件やは種量など

	ほ場条件	10a 当たり は種量 ※	栽培上の特徴と留意点
畝立てドリルまき (一工程ドリルまき)	ほ場の排水が良く、土壌がなるべく乾いていること (碎土率70%以上)	7~8 kg	<ul style="list-style-type: none"> 耕うん~覆土まで一工程で完結できるため、作業途中の降雨の影響が少ない。 覆土されるため、<u>土壌処理除草剤の散布により苗立ち後及び越冬後の雑草管理が容易になる。</u>
全面表面まき	排水が良く碎土率が高い(70%以上)場合	8~10 kg	<ul style="list-style-type: none"> は種時の土塊の大きさ、は種後の天候等の影響を受けやすく、出芽・苗立ちは不安定。 表面まきのため、除草剤処理は雑草の生育に応じて、越冬後に茎葉処理剤を散布する。
	排水が悪く碎土率が低い場合	10~12 kg	

※ は種量は、は種時期が早ければ適正量の範囲内で減量、遅ければ増量する。

表5 地帯別は種期と越冬前生育量のめやす

地帯別	平年根雪日数	は種期	越冬前生育量
中雪地帯 (長岡・三島地区)	60~90 日	9/25~10/5	葉数7葉以上
少雪地帯 (和島・寺泊地区)	60 日未満	9/25~10/10	葉数5葉以上

5 秋期追肥・越冬前追肥の施用

(1) 秋期追肥

苗立数が 150 本/m²を下回る場合は、は種2週間後に窒素成分で2kg/10aを施用しましょう。

(2) 越冬前追肥

湿害などにより黄化が進む場合は、追肥前に排水対策を実施し、遅くとも11月中旬までに、窒素成分で1~2kg/10aを施用しましょう。

ただし、過繁茂なほ場では原則として施用しないようにしましょう。

農作業中の事故・熱中症に注意しましょう！